

美博文化講座 (柳田國男記念伊那民俗学研究所共催)
天龍川水系・伊那谷の民俗を考える

天龍川が流れ下る伊那谷。そしてその下流域は、全国的に見ても特色ある民俗文化が息づいています。その特質はなにか、そして、さらに理解を深めるためにはどんな課題があるのか、どんな可能性を秘めているかを、下記の2つの講座を通して探ります。

なお、本講座は、後日、飯田ケーブルTVで放映する予定ですので、そちらでも聴講いただけます。

期日：令和2年9月6日(日) 会場：飯田市美術博物館講堂

①午前11時00分～12時00分 (開場10:45)

天龍川流域の民俗芸能 —中世芸能と近世芸能の
分布が意味するもの—

講師：櫻井 弘人 (飯田市美術博物館専門研究員)

南信州の民族芸能を中世的な信仰色の強い古い芸能と近世以降の娯楽色の強い新しい芸能に区分して分布図に落とすと、前者は県南の山間地から三河・遠州の県境一帯のいわゆる「三信遠国境地方」に広がり、後者は飯田を中心とした盆地に広がります。これは何を意味するのでしょうか。その背後にある芸能の性格やそれを支えた社会のあり方、さらに相互や周辺地域との関係などについてさぐってみます。

②午後1時30分～2時30分 (開場13:15) *オンライン講座

伊那谷の民俗をどう捉えるか

講師：小川 直之 氏 (國學院大學教授・本館顧問・
柳田國男記念伊那民俗学研究所長)

天龍川水系地域は、民俗文化から見えていくと日本の東西文化の境界領域となっています。たとえば正月の歳取魚はブリとサケが混在し、事八日行事が2月と12月にある東日本の西端地域です。しかし一方では、この谷筋は独特な修正会が田楽などとして色濃く根付くなど、文化的には一帯的地域になっています。伊那谷は列島文化の分離地域であるとともに、谷筋として同質的地域となっているのであり、このことを具体的に検証してみます。

聴講：無料・事前申込み必要 (30名以内)

申込み：①②それぞれについて、開催日の2週間前の8月23日(日)から美術博物館まで
電話(22-8118)でお申し込みください(開館日9:30~17:00 庶務担当)
定員30人に達した時点で締め切ります。

ご注意：体調のすぐれない方は当日の参加を遠慮ください。マスクを必ず着用ください。



飯田市美術博物館

〒395-0034 長野県飯田市追手町 2-655-7

TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 <https://www.iida-museum.org/>